

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会 [公開議題]

議事概要

- 日 時 令和6年2月1日(木) 10:00～10:35
- 場 所 中央合同庁舎第8号館6階623会議室
- 出席者 上山議員、佐藤議員、篠原議員、菅議員、波多野議員、藤井議員、
光石議員
(事務局)
大塚内閣府審議官、坂本事務局長補、藤吉審議官、川上審議官、
徳増審議官、泉審議官、武田参事官、渡邊統括官、寺坂企画官、
森総理補佐官 (Web)
(文部科学省)
廣野科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課拠点形成・地域振興室長
(日本学術振興会)
高見沢人材育成事業部長(兼) 研究事業部長(兼) 経営企画部付、
菅原経営企画部大学経営支援課長
(オブザーバ)
松本外務大臣科学技術顧問、小安文部科学大臣科学技術顧問
文部科学省) 長野サイバーセキュリティ・政策立案総括審議官
- 議題 ・地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)の採択結果に
ついて

○ 議事概要

午前10時00分 開会

○上山議員 皆様、おはようございます。定刻になりましたので、ただ今より総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会を始めます。

本日は、梶原議員が御欠席となります。

一つ目の公開議題は、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)の採択結果についてです。

文部科学省から科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課拠点形成・地域振興室の廣野室

長にお越しを頂いております。まずは担当の廣野室長より資料の御説明をお願いいたします。

○廣野室長 よろしくをお願いいたします。文部科学省の廣野です。

それでは、令和5年度に行いました地域中核・特色ある研究大学強化促進事業の採択結果について御報告をさせていただきます。

資料1枚目御用意しておりますのが全体の概要です。令和4年度第2次補正予算におきまして措置されました約1,500億円、こちらを日本学術振興会に基金造成をいたしまして、その基金から5年間にわたり、1件当たり最大55億円程度の支援を最大25件程度行うという枠組みでスタートさせていただいた事業です。

おめくりいただきまして、2枚目、3枚目の資料に今回5年度における採択結果大学の一覧をおつけしてございます。最大25件程度ということで枠ございましたが、今回は12件の採択を決定いただきました。全体として申請が69大学ございまして、その結果12大学、内訳として国立大学が9大学、公立大学が1大学、私立大学が2大学という結果になってございます。

25の枠がございますので、その残りについては来年度改めて公募を行いまして、改めて申請いただいた提案の中から採択大学を決定していきたいというふうに考えてございます。

ほか、資料をつけてございます。4ページでは審査いただきました事業推進委員会の名簿をつけてございます。上山議員、佐藤議員、波多野議員にも審査、膨大な量の提案に御協力いただきまして、誠にありがとうございました。また、続きということもございしますが、よろしくをお願いいたします。

5枚目については、審査の過程をまとめてございます。5月下旬頃に公募を開始いたしまして、以降、1次審査の書面審査、2次審査のヒアリングを経まして、昨年12月22日に採択大学を決定し、公表したところです。

6枚目、7枚目については、審査に当たりましての総評、こちらも事業推進委員会から頂いてございます。今回どういった点を勘案して採択大学が高く評価されたのかというところを七つの観点でまとめていただいております。一方で、採択された大学が、この全ての観点で十分満足できるということでは必ずしもございませんで、今後事業を進めていく上での伴走の中で更なる磨き上げ、ブラッシュアップというのにも必要だという御指摘も頂いております。

7枚目の方になりますが、今回不採択となった大学についても、次回提案いただく際に上記の七つの観点を踏まえた見直し、磨き上げというものも期待してございます。いずれにいたしましても、日本を代表する研究大学へと発展するということを目指した計画というものの提案

を期待しているところです。

最後の資料です。来年度公募に向けまして、各大学からの事前相談というものを文部科学省の方で受け付けますということで案内をしてございます。既に幾つかの大学から申し込みもございまして、相談を受け付けさせていただいております。この中でしっかりとこの事業を通して実現したい姿、そういったものを共有いただくとともに、磨き上げに当たっての観点、そういったものを丁寧に対話をしながら共有を図っていきたいと考えてございます。

なお、採択決定されました12大学については、現在交付決定に向けた手続を行っているところです。更にその先には5年間の支援、そして10年後のビジョンの実現ということに取り組んでいただくこととなります。その取組に対して文部科学省、JSPS連携いたしまして伴走をしっかりと行っていきたいと考えてございますので、引き続き御助言、御指摘を頂ければと考えてございます。

以上、報告です。

○上山議員 ありがとうございます。

この事業、最初のラウンド終わりました、私も含めて、波多野議員とそれから佐藤議員には審査に関わっていただいたので、我々は内容も知っておりますが、ほかの方々は御存じない方もおられますし、初めて公開で結果の報告ですので、この公開の場でこれは言っておきたいとかいろいろあれば是非頂きたいと思っております。

いかがでいらっしゃいますか。では、篠原議員、それから藤井議員、どうぞよろしくお願ひします。

○篠原議員 質問なのですが、この結果12大学、今これフラットに並んでいるのですが、もともと公募するときに卓越性とイノベーションと地域貢献という三つの特徴のどこを伸ばすかということで多分公募したと思うのですが。多分それぞれの大学が特定の一つの分野だけではなくて、多分二つ、三つという格好で提案なさっていると思うのですが、結局選ばれたこの12校を見たときに、特にやはり①が優れている、卓越性が優れている部分、例えばイノベーションが優れている部分、地域貢献が優れている部分と分けたときに、大体何校ずつのグループになっているのですかね。

○廣野室長 提案の際、それぞれの大学が伸ばしていこう、強化していこうとする機能は、それぞれの提案の中で頂いてございます。採択された大学については単独の機能ということでの申請ではございませんで、機能を組み合わせたものを頂いてございます。機能①と②を組み合わせた提案いただきましたのが5大学、機能②と③を組み合わせたのが2大学、機能①、②、

③を組み合わせたものが5大学ということです。

○篠原議員 その機能を組み合わせたというのは分かるのですが、単に組み合わせただけではなくて、例えば①で見るとここはやはり一番すごいねとか、②で見るとやはりここが意欲的だねとか、③で見たときにここは意欲的だねというふうに、そうやって大ざっぱに特色を見たときに分布がどうなっているのかなど。

気になっているのは、これまでもさんざん議論してきたとおり、やはり多様な大学が生まれていかなきゃいけないと思っていて、みんなが例えば①、②、③同じようにやりますというのではつまらないと思うのですね。かといって、一方ではやはり③の地域貢献みたいなやつというのはなかなか評価しづらい部分もあって、どうしてもやはり①とか②に重点が行きがちになってしまうのではないかという懸念があるものですから、例えば③はすごかったねというのがこの12校のうちどのぐらいあったかなというのが知りたいのですけれど。

○廣野室長 審査に当たって、機能に着目したそれぞれの機能ごとの評価を頂いたという訳ではございませんので、この点についてはそれぞれの採択大学の取組、また今各大学で公表用の取組概要を作成いただいているところです。伴走を通じて取組強化しようとしているところの特色をしっかりと私どもの方でも分析をいたしまして、対外的にお示しできるような形で整理していきたいと思っております。

○篠原議員 例えば来年度もまたこれからの応募、採択審査というのがある訳ですが、例えばこの事業の目的としてその辺のバランス、①、②、③のバランスみたいなものを例えば意識して選んでいくというお考えは事業の目的としてはないのでしょうか。例えば少し極端なことで選んでみたら、みんな①単独でしたみたいな話になって、それではこの事業の目的が果たして少しいいのかなというのが若干心配なのだけれど、そこはどうです、来年に向けて。

○廣野室長 まだ確定的なお話としてお答えできる訳ではございませんが、やはり機能に着目したバランスを審査の観点にということは今の事業の設計の中では取り入れてございませんで、飽くまで各大学がどの機能を伸ばしていくのかという提案に対して、その実現可能性ですか卓越性、そういったものを御審査いただいております。

結果において①、②、③の機能でどれか機能が全く欠けているということはございませんでしたが、そこの機能からアプローチした審査の観点を取り入れるかどうかという御指摘になるかと思いますが、今行っている仕組みの中ではどの機能に分布というものをバランスを取るという観点が出てきている訳ではないという状況です。

○篠原議員 分かりました。少し僕思っているのは、①と②と③では測る物差しが違うのだと

思うのですね。①と②と③では測る物差しが違うので、その辺のやはり機能というものに着目した評価ということをやっていないと、①は本当は例えばセンチで測るべきで、②はグラムで量るべきのやつを、単にごっちゃで足し算して結果はこうでしたとなってしまうと、少し埋もれてくる機能もあるのかなと思っているので。

これは来年に向けてで結構ですから、その機能に着目をするかどうかというところについてもう少し考えていただけたらと思います。そうしないと、みんな本当に同じような大学になってしまうたらつまらないので。

○廣野室長 ありがとうございます。

○上山議員 ありがとうございます。

藤井議員、いかがですか。

○藤井議員 ありがとうございます。

私も審査に当たっては一つ一つの提案について評価して決めていただいたのだと思うのですが、そもそもの目的は国際卓越と地域中核を併せて日本全体の研究力をどう高めるかというものだったので、採択された大学について、例えば地域のカバレッジはどうだったのか、あるいはどういう形で地域における学術を振興するやり方になっているのかなど、全体を俯瞰して見たときにどういうバランスになっているかご教示いただけないでしょうか。また、大学の規模や、大学それぞれの特色を見たときにどういう多様性があったのか、なども教えていただきたいく思います。

併せてこの事業の公募はセカンドラウンドがある訳ですから、その審査において、事業全体の効果を高めるためにどういう観点が必要になってくるか、分かっていることがあれば教えていただきたいと思います。

もう一つは、伴走支援がどういう形で行われるかということをお示しした方が、次のラウンドに大学がまた出そうとお考えのときに非常に参考になるのだらうと思います。これについても是非お考えを教えていただければと思います。

○廣野室長 まず1点目です。今回採択12大学採択を決定したところです。それを全体を俯瞰したときにどういう評価するのか、私の立場でお答えするのは少しおこがましいところもございますが、今回事業で求めておりましたのが、日本の全体の研究力をけん引していけるような研究大学群の一翼を担っていただくということを願って提案を頂いたところですので、そうしたこれまでの取組ですとかということがベースとなって今回採択された大学というものの結果として出てきているのかなというふうな受け止め方もございます。

一方で、多様な研究大学群ということが一つございますので、その多様性というところについて残りの13大学の枠ございますが、それぞれの大学の特色というのを、強みというのを更に磨き上げたところがあった提案をそれぞれの大学には期待したいなと思っているところです。

2点目の伴走の姿です。まだ具体的な中身を詰めて検討させていただいているところですが、基本的には提案の中で、10年後の大学ビジョンというものを提示いただいております。そのビジョン実現に向けて取り組んでいく中で、超えていくべき課題ですとか、そういったものというものもあろうと思いますし、見誤らない目指す道、そういったもの、迷わないようにそこに向かっていけるという形での伴走の仕方、助言というものがあるのではないかと考えています、そこに注力できるようにと思っております。

○藤井議員 今後に向けては、今回の採択結果を受けて分析が必要になるというイメージでしょうか。

○廣野室長 はい、それぞれの大学の提案と目指す姿それぞれございますので、個別の大学の状況に応じた対応していきたい。

○藤井議員 一つ目の観点についても、ですね。

○廣野室長 はい、まず事業として採択される場所に対してどうしていくのか、今後も提案を期待しているという段階です、具体的な分析というものはしっかりやっていきたいなと思っています。

○藤井議員 ありがとうございます。セカンドラウンドに向けてしっかり御検討していただければと思います。

○上山議員 光石議員。

○光石議員 ありがとうございます。

観点が①から③までありますが、篠原議員も言われていましたように、特に、③の地域の活性化を考えると、ここで採択されている大学は結構恵まれている大学ではないかと思いますが、③のところを今後どのように進めていくのかという観点と、

例えば、この予算だけではなく、他の予算の連携について今後どのように考えるのかということが一つと、

羅針盤を設けていると思いますが、①、②、③との関係が打ち出されていたのか、あるいは結構独自のものが出てきていたのか、面積と表現する方がよいかもしれませんが、総合的な力が出てきたのか、主張したいところなので総合的な面積が大きくなるように出しているのではないかと思います、そうではなく、例えば、ピーキーなものがあったのかなどについて

教えていただけますでしょうか。

よろしく願いいたします。

○廣野室長 ありがとうございます。

御指摘のように、地域大学をどう捉えていくのかというところは全体としての今後の方向性を見たときに非常に重要な観点だと受け止めております。それをこの事業の中でどこまで取り入れていけるのかというところは、事業の枠内なのか、それよりも他事業全体も含めた捉え方をしていくのか、正に重要な視点だと思っております。

その観点で機能③の部分を、この事業だけででき得るのかというところでいうと、他の事業で今進んでいる取組もございますので、全体としてパッケージの中で強化していく絵姿を描けるかどうか、その中でこのJ-PEAKSの事業がどのように機能を果たしていけるのか、それで連携を図っていきたいとは考えてございます。

また、御指摘いただいた羅針盤のところですが、今回事業の公募要領の中でもパッケージで示された羅針盤というものを自己の大学の分析ですとか戦略計画を策定するに当たっての指針とするようにということを示してございましたので、提案の中で具体的にレーダーチャートの中でどの領域をどこまで上げるかを図示して提案いただいたところと、図示ではない形で戦略の中でこの機能についてここまで伸ばす、今ここにあるのをここまで伸ばすと文字としていただいたような様々な提案がございましたので、一概に面積とかそうした分析はまだこちらではできておりませんが、いずれにせよ提案大学それぞれが羅針盤の中で自己の大学の立ち位置、そしてそれをどこまで伸ばすのか、そうしたことを念頭に戦略を策定いただいて計画を作っていると思いますので、伴走を通じてその確認といえますか、明らかにしていく、状況を把握していくということもしていければと思います。

○光石議員 ありがとうございます。

○上山議員 では、菅議員行って、それから佐藤議員。

○菅議員 ありがとうございます。

まず、この採択に当たって御尽力された審査員の先生とそれから事務局の方に深く感謝申し上げます。

私から一つ質問をさせていただきたいのは、国立大学はどれ見ても割と特色ある研究といたしますか、その地域の中還元しているとか、特色ある研究のところが中心にして提案している印象を受けたのですが、一方で公立と私立大学って非常にジェネラルな、何か特別にピュッととがったようなことを提案していないように見えるのですが、実際どんな感じだったの

か、少し感触を教えていただけたらと思います。

○廣野室長 こちらも私の立場でというところではありますが。

例えば大阪公立大学は、公立大学という強みを生かして、自治体の行政に対するコンサルティング機能というものを強み、特色として伸ばしていく、強化していく、そうした提案を頂いていたかなと思っております。

慶應義塾大学についても、実学という側面から社会実装の方につなげていく、そうした機能を強化していく前面に打ち出した提案いただいていたかなと思います。

○菅議員 ということは、それは①、②、③のうちのどれに入るのですか、②に入る場合が多いですか、それとも。

○廣野室長 例えば大阪公立大学は③という、公立大学という立ち位置を生かした③の機能ということもございましたし、慶應義塾大学については②の機能というところかなと思っております。

○菅議員 OISTは地域、OISTはどのようなのですかね、②ですかね。OIST、私立というのも少し何かはばかる感じがしないでもないですが、一応立ち位置としては私立大学という位置付けなのですよ。

○廣野室長 はい、分類をすれば私立大学になるというところですよ。

○菅議員 分かりました。OISTは私数か月前に行ったのですが、非常に発展しているなどという印象を受けて、これからどれぐらい伸ばしていけるかというのを彼らは考えているというのはよく学長と話をしても感じましたので、是非伴走支援をしていただけたらと思います。よろしくお願いします。

○上山議員 では、佐藤議員、お願いします。

○佐藤議員 審査をした側から感想めいたことも含めて。

一つは、69校がアプライしてきたということの重さというものを非常に強く感じます。そのことそのものが底上げということに明らかにつながっているという意味においては、このアクションというのはやるべきだったし、やってよかったと、これがベースの感想です。

その上で、この地域中核、ポチ、特色ある研究大学、このポチというのがアンドなのかオアなのかというのが最初の議論にあって、結局我々はオアを取ったのです。したがって、例えば東京芸術大学が入っていますが今までと全く毛色の違う大学であり、東京の大学です。香川大学との連携はありますが、この大学を地域中核と言い切れるのかどうかという問題ありました。しかし“オア”と理解することによって特色あるという方で拾っていくというジャンルが

できたということだと思います。

それからもう一つは、OISTですが、研究レベルの高さや沖縄という地域で選んだという経緯です。初めて取り組んだプロジェクトでの議論でしたので、御紹介申し上げます。

また、国際卓越の場合には大学のガバナンス体制の強化が絶対的な要件でしたが、地域中核の場合はそこまでガバナンス変革は求めていませんでした。しかし大学の中におけるコンセンサスのつくり方とか学長のリーダーシップはやはり重要な要素であったのかなということを非常に強く感じました。

その上で、今後の問題として3点申し上げます。一つは伴走支援のことです。これは先ほど御説明ありましたように、まだ形が決まっていません。どういう人をPDにするかということだけではなくて、伴走支援のフォーミュラー、やり方あるいはフォーマット自身もまだ可変的であるということがあって、このプロジェクトを成功させるための大事な要素の一つが伴走支援ですから、ここから相当詰めた議論が必要になってくると理解しています。

それからもう一つは、他大学との連携ということ。今回それを大きなテーマにしました。従って今後大学間連携の成果をフォローしていく事、即ちどういう大学間連携が研究大学の成長にとって有効か、ということをよく見ていく事も重要な残課題だと思います。

最後に、これは非常に事務的な仕組み的な話ですが、第2期については、国際卓越をアプライした大学が「地域中核・特色ある研究大学」へ応募して来る可能性があり得ると思われまので、「国際卓越」と「地域中核」で求められる大学の姿に今一度理論的な整理をしておく必要があるのではないか、と感じます。

最初に申し上げました様に、非常に重要なプロジェクトがスタートしたと思う一方、今申し上げたような3点を含め、更に進化していかなければならない部分もあると感じています。

○上山議員 国際卓越の方が上でこちらが下という構造ではないので、ここでははっきりと完全に一体化したものだということは申し上げておきたいのですが。

では、小安先生。

○小安科学技術顧問 1点だけ伺います。大学によっては、参画機関が非常に多くなっていますが、実際にはこのつながりが、本当に機関としての参画同士なのか、それともその参画機関のうち、1、2名の研究者程度なのかということが資料からはわかりません。しかも、非常に多い大学と非常に絞られている大学があり、どのような参画の仕方となっているのかというのを教えていただけないでしょうか。

○廣野室長 こちら一覧の中でも見せ方、同じ連携大学でも参画機関と連携大学分けてござい

ます。連携大学というのが今回の基金から支援する費用……

○小安科学技術顧問 連携機関については理解しております。参画機関について教えていただきたい。

○廣野室長 参画大学との参画の結びつき度合い、今回申し訳ございません、提案の中でそこまで確認をするところまでは至っておりませんで、参画がどこまでの参画なのか、そこは今後伴走で入っていきますので、状態というのが確認しながらということになると思います。

○上山議員 私も波多野議員も一緒にこれに関わりましたが、なかなか大変な作業でございました。

何かありますか。

○高見沢人材育成事業部長 すみません、事務的な補足ですが、連携大学については学長からのコンセンサスを頂いていて、参画機関の方は関係するセンターですとか、その下の部局の長からは合意を得ているという状況です。

○上山議員 波多野議員、ありますか、御経験でおっしゃりたいことって。

○波多野議員 佐藤議員が全てギリギリのところをおっしゃってくださったのですが。私は69校いずれも課題に真摯に向き合い、学長のリーダーシップの元で10年後のビジョンを描いて変革しようという意欲的な構想であると実感しました。

一点、採択校がオープンになってから地方が偏っている東北や九州、四国などが採択になっていないのはどうして？、というシンプルな質問をいただきました。私の理解は、あくまでも地域中核であって、関東エリアにあっても地方の活性化に貢献する研究大学も対象と認識しています。例えば芸大も香川大学と連携して地方、地域を活性化するという御提案でもあったと思います。そうした観点から誤解がないようにメッセージすることも必要と思いました。

○上山議員 はい。

○篠原議員 とても簡単な質問を一つとお願い一つなのですが。

とても簡単な質問の方は、1ページ目を見ると、この戦略実行経費と、あと研究設備の整備経費ってありますよね。この整備経費というのはこれに先立って選ばれているのですが、来年度もこの整備経費というのは次の第2ラウンドはあるのでしょうか。

○廣野室長 はい、令和4年度の2次補正予算で措置されましたのが全体で2,000億ございまして、502億については施設整備費という事業で既に採択をさせていただいて進んでおります。そこはもう補正予算の一発ものになるのですが、こちらの基金で支援する研究整備等整備経費については、建物というよりは実験装置ですとかそういったものを採択1件当たりに

30億ということで、来年度アプライして採択されるところにも同じような形に……

○篠原議員 分かりました。補正の方はもう一発限り。

○廣野室長 おっしゃるとおりです。

○篠原議員 あと、少し私先ほどの続きなのですが、先ほど佐藤議員がおっしゃった地域中核・特色ある研究大学のこの・の意味というのはやはりアノなのかオアなのかというのが大事だと思っています。先ほど光石議員もおっしゃったレーダーチャートで見たときに面積が大きい大学がいいのか、それとも面積が小さくてもとてもピークがあるところがいいのかという、その考え方でこの点の解釈というのは決まってくると思うのですよね。

だから、それについては今回の結果がどうのこうのというよりも、来年に向けてやはりそれをどう捉えるか、レーダーチャートをどう捉えるかというのは少しお考えいただきたいというのと。

あと、先ほど佐藤議員の方から審査に当たって学長のリーダーシップという話がありましたが、そうなってくると国立大学の経営改革促進事業、あれは正しく学長のリーダーシップを問うているもので、その選定がこれから始まるときに、今回選ばれた大学をどう捉えていったらいいのかです。そこは何か御意見あります。

○廣野室長 2点頂いたところとっております。

まず、これから申請を再提案をしていこうという大学、相談来ている中でも、どういう方向性でいいのかというところは尋ねられることもございます。総合力というよりは、おっしゃったように、とんがった部分をどう見せられるのか、その実現に向けてプロセスをどう描ききれますかという、そうした視点をお伝えをさせていただいているところです。

もう一点が、失礼しました、答えながら忘れてしまいました。

○篠原議員 経営改革促進事業、国立大学限りですけど。

○廣野室長 そうですね、はい。大学をこれからどう持っていくのかという観点でいくと、このJ-PEAKSの事業も大学全体、これの支援される以外のリソースをどう使っていくのかというところで、大学のリーダーシップ非常に重要な部分だろうとっております。

今回措置させていただくこの事業においては正に戦略的実行経費と研究設備等整備経費、それ以外の大学のリソースをどのように戦略実現に向けて割くのかというものは、この事業で絞るというよりは正に大学が全体のリソースをどう有効活用していくのかという部分ですので、そこをこの事業とは恐らく、予算の使い道としてはバッティングしないところなのかと思いますが、目指すべき大学経営の改革の姿というところは連動する部分かと思っておりますので、大学の

取組としてどういう方向を目指して、どういう改革をしていくのか、そういったところについては伴走の中でもしっかりと取組を見ていく必要があるのかなと思っております。

○上山議員 最初の機能の話ですけれど、一応機能別に提案をしてきているのですが、ディスカッションの中で、例えば三つ全部書いてあるけれど、あなたのところはむしろその中でもここではないかというような議論が大学側と委員側でのやり取りでもございました。ですから、機能別に選んでいくというよりは、提案の中ではそうした機能になっているが、例えばあなたのところはもっと地方の話ではないですかという委員とのダイアログが結構あって、その中でやがて修正されてきて、その中でも上積みとしてうまくといいますか、よく書けているところが選ばれてきたという印象はあります。

ですから、機能別で選んだ訳ではないということはず言えると思います。

○篠原議員 だから、確かに選ばれた大学を見ると決してそうではないというのは分かるのですが、やはり一番恐れているのは、ミニ国際卓越、ミニ国際卓越大学ばかりが選ばれてしまうと、やはり当初この事業が狙っているところとは違ってくるので、やはりミニ国際卓越ではないかと、藤井議員の顔を見てミニ東大と言いきうようになったのですが、ミニ国際卓越大学ばかりではないよねというふうなところがうまく見えてくるといいかなという感じは。

○上山議員 是非テークノートして、また山崎座長とかとお話をした方がいいと。

○藤井議員 地域中核・特色あるの「・」をアンドと捉えるとして、そのことが日本全体の研究力を強化するという観点でどのように働くのかを見ながら今後の検討を進めていただくのがよろしいのではないかと思います。

○上山議員 ありがとうございます。

もう一つは、少し後で話をするときもあるかもしれませんが、前から篠原議員おっしゃっている経営強化力の資金と、それから佐藤議員にも関わってもらっている我々のイノベーションの基金がありますよね、これを機動的に使うことによっていろいろな全体像の中でどういう特色ある大学を作っていけるかということをこうしたところで議論させていただきたいと。

佐藤議員にもこの間もイノベーションの話で随分その話になって、まだ完全に確定はしていませんが、それをまずこの木曜会合のところに出していただいて、経営強化力のところはこうした方向でつなぎのようなことをやってほしいとか、地域にもっと特色あるのだったらそうしたところにこうした資金を出してほしいとか、そうした話をここで議論をさせていただきたいかなというふうに思っております。

少し時間も過ぎましたので、ではこの地域中核・特色ある研究大学強化促進事業についての

議題はここで終えたいと思います。

どうも、ありがとうございました。